

活動報告

—「令和3年度技術士第二次試験合格者祝賀会(高知会場)及び 第80回CPDセミナー・公開講座・防災セミナー」—

四国本部 広報委員長

高知県支部 幹事

筒井 秀樹

HIDEKI TSUTSUI



1. はじめに

令和4年6月24日に「令和3年度技術士第二次試験合格者祝賀会(高知会場)及び第80回CPDセミナー・公開講座・防災セミナー」を高知市内の高知会館で開催した。

新型コロナウイルス感染症については、一定の落ち着きを取り戻してきたものの、まだ1日当たり100人前後の新規感染者が発生している状況である。祝賀会については、高知県の「感染症対応の目安」におけるステージ：警戒(オレンジ)であることを踏まえて、参加者全員について、「3回目のワクチン接種歴の確認」又は「抗原定性検査による陰性確認」をしたうえで実施した。

当日は、受付での検温や参加人数を会場収容人数の半分程度とし、座席間隔を十分確保するなど感染対策に留意して行った。参加者数は、セミナー・講座58名、祝賀会39名と盛会であった。

2. 開会

開会の挨拶は、四国本部の河野一郎副本部長が行った。四国本部の紹介は、司会を務める下村昭司事業委員が行った。

四国本部の紹介の最後に、令和3年度技術士試験の合格者3名が紹介され壇上に上がり紹介された。一人一人自己紹介があり、所属企業や職務内容、今後の抱負等の話があった。部門内訳は、3人共に建設部門であり、この3名は既に日本技術士会に入会済みである。

西村青年技術交流委員より、青年技術士交流委員会の活動報告があった。高知県の青年技術士交流委員は、昨年3名の若手新規合格者が加わったことで、懸案であった委員の若返りが図れて今後の活動の弾みとなっていることが紹介された。



写真1 受付での検温状況



写真2 河野副本部長の開会挨拶



写真3 四国本部の紹介(下村事業委員)



写真 4 新規合格者 3 名登壇



写真 5 青年技術士交流委員会活動報告(西村委員)

3. CPD セミナー

CPD セミナーは、「インフラ整備予算確保の取組みと円滑な執行 ～行政経験者の視点～」と題して、前高知県土木部長、(株)第一コンサルタンツ取締役の森田徹雄氏にご講演いただいた。公演では、令和4年度の予算の説明に始まり、政府全体の公共事業費、国土交通省予算推移および高知県土木部の予算推移についての説明があった。

続いて、国の予算編成の仕組みなどの説明があり、高知県では尾崎知事の時代から国の政策形成や来年度予算編成の検討に合わせ、関係省庁等に対し、「予算要望」ではなく「政策提言」として国に働きかけを行っているとの説明があった。特に高知県は、南海トラフ地震に対する防災対策が喫緊の課題であり、知事の政策提言として「8の字政策提言」、「三重防護政策提言」、「河川改修政策提言資」等についての解説があった。

また、交付金や補助事業に関しては、有利な起債の交付税措置を活用して、少ない県予算で効果的な事業を執行しているとの説明があった。



写真 6 森田氏による CPD セミナー

4. 公開講座

公開講座は、「ものづくり半世紀のあゆみ」と題して(有)サーマル工房代表取締役社長 谷村正樹氏にご講演いただいた。

講演では、谷村社長が会社を設立するまでのあゆみを、家具製造会社、機械工具商社、産業ロボットの設計・製造会社での経験や、趣味の模型作りが高じて、模型店でのラジコン飛行機の開発業務などのエピソードを交えて紹介していただいた。なかでも特筆すべきは、「鳥人間コンテスト」に応募して設計審査に合格し、チームを作って翼幅18mの人力飛行機を完成させ参加した経験があるとのこと。結果は主翼剛性不足で46mであったそうであるが、35年程前のコンテストでは、飛行距離100mを超えると大騒ぎでする時代であったことを考えると、一地方のアマチュアチームとしては大変な偉業であったと思われる。

そして36歳の時にラジコングライダー設計・製造・販売を主体とした現在の会社を創業。開業後は、幾多の困難があったものの、これまでに培った技術と経験で乗り切ったことなどが紹介された。

最近では、JAXA(宇宙航空開発機構)の依頼で風洞実験用機体や無人航空機の開発を担当したり、実物と同じ素材と構造の精密模型の和船(写真8)の製作・販売を行っている。また、高知の大手圧入機メーカーからの依頼で地下駐輪場や圧入機の模型製作(写真9)の他、建設コンサルタントの依頼で、自動道のジャンクション完成予定ジオラマの製作等も請け負っているそうである。

このように、高知のものづくりへの貢献が評価され、平成30年には高知県知事より「産業技術功

労賞」が送られている。

現在は、令和3年にあるクライアントの依頼を受けて設計・製作した無人機が、静岡県富士川飛行場より880Km離れた西ノ島の空撮を成功させて、その様子はNHKの番組となり今年1月27日に放映されている。そして今年の秋までに40時間(4000キロ)飛行出来る新型無人航空機を完成させる計画だそうである。他にも、ドローンの試作・デザイン・ボディ製作等や、高速バスの二段式リクライニングシートの開発設計・試作を進めている。



写真 7 谷村氏による公開講座



写真 8 谷村氏による模型(和船)



写真 9 谷村氏による模型(サイレントパイラー)

5. 防災セミナー

防災セミナーは、「高知県の南海トラフ地震への取り組み状況」と題して高知県危機管理部南海トラフ地震対策課の黒岩課長にご講演いただいた。

南海トラフ地震の最悪のケースにおける高知県の被害想定の説明があった。次の地震規模を特定することが困難なため、被害想定は最大クラス地震・津波(L2)と発生頻度の高い一定程度の地震・津波(L1)の異なる2つの地震を想定し、幅を持たせた対策に取り組んでいるとの説明があった。

そのほか、現在高知県が進めている南海トラフ地震対策行動計画の策定状況について説明があった。行動計画は、2008年から随時策定され、2022年3月には「第5期南海トラフ地震対策行動計画」が策定されている。第5期行動計画の目標としては、「命を守る対策」として、津波からの避難路・避難場所の整備や火災対策、「命をつなぐ対策」では、地域に支援物資等を届けるための輸送対策、「生活を立ち上げる対策」として、避難所の確保と運営体制の充実や医療救護対策などの産業の復旧・復興対策等についての説明があった。

南海トラフ地震対策の実践編として、高知県の災害対策本部体制や高知県を5つのブロック(安芸、中央東、中央西、須崎、幡多)に分けて配置している「南海トラフ地震対策推進地域本部」での取り組み紹介があった。また、総合防災拠点の整備方針や「高知県南海トラフ地震応急対策活動要領」の概要説明があった。

最後に、「国への政策提言」として、応急期に必要な土地の確保や復興まちづくりのための土地利用計画は、L2津波の浸水想定や被害想定に対応できることが求められているが、国の方針では最悪の事態(堤防が壊れてゼロになる条件)のシミュレーションによるため、想定規模が甚大となり土地の確保が困難となっている。これまでに多額の費用を投じて整備してきた河川・海岸堤防について、L2津波に対する効果の定量的な評価手法が確立されていないことから、河川・海岸堤防の整備効果を踏まえた浸水想定を行うための評価手法の確立を求めていきたいとの報告があった。



写真 10 黒岩課長による防災セミナー



写真 13 祝賀会開催状況

6. 技術士二次試験合格者祝賀会

四国本部の右城猛参与の開会挨拶、河野一郎副本部長の乾杯で祝賀会が開宴した。今回の祝賀会も感染対策に配慮しつつ新たな合格者の祝賀、交流の時間を楽しむことができた。



写真 11 右城猛参与の開会挨拶



写真 14 小川高知県副支部長の閉会挨拶



写真 12 河野副本部長による乾杯

7. おわりに

新型コロナウイルスの影響も治まりつつある中での開催であったが、十分な感染防止対策を施してセミナー・講座・祝賀会を無事に終えることができた。開催にご協力いただいた関係者の皆様、後援いただいた（一社）建設コンサルタンツ協会に感謝申し上げます。

また、今回ご講演いただいた3名の講師におかれては、いずれも非常に興味深い内容で聴講者にとって有意義な時間であったと確信している。この場をお借りして感謝申し上げます。

今後も、社会情勢を鑑みて感染症対策などに配慮し、より良いセミナー・公開講座の開催に努める所存である。

—以上—